

## アワダチソウゲンバイの発生について

### 1 発生の経緯

平成 25 年 6 月下旬に県南部のきくほ場において、葉に白いかすり状の脱色斑が発生し、ゲンバイムシ類の寄生が認められた。このゲンバイムシ類を農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼した結果、北米原産の侵入害虫であるアワダチソウゲンバイであることが確認された。本種は、平成 12 年に兵庫県のアワダチソウで初めて発生が確認されて以来、西日本から東日本へと分布を拡大している。

本県では、平成 24 年に仙台市内のアワダチソウで寄生を確認したが、農作物における加害が認められた例は初めてである。その他、なすやひまわりでも加害が確認されている。

### 2 発生状況

- (1) 発生作物 きく、なす、ひまわり  
(2) 害虫名 アワダチソウゲンバイ  
*Corythucha marmorata* Uhler

### 3 形態的特徴と生態

- (1) 成虫の体長は約 3 mm で軍配に似た形状をしている。前翅には周縁部と一部の翅脈上に小さな棘が並んでおり、特徴的な褐色斑がある。終齢幼虫は体長約 2 mm であり、全身が褐色の紡錘形で多数の棘がある。  
(2) 大阪府の調査では、露地ぎくでは 6 ~ 8 月に発生し、成虫の発生ピークは 7 月下旬と 8 月下旬、幼虫は 8 月上旬と下旬と報告されている。また、きく科雑草において成虫越冬することが確認されている。

### 4 被害状況

- (1) きくでは、成虫及び幼虫の吸汁により、葉に白いかすり状の脱色斑が発生し、葉裏には黒い粘液状の排泄物が付着して汚れる。被害が著しい場合は、葉全体が白化し、枯死に至る場合もある。  
(2) 本種は、アスター、きく、ごぼう、ひまわり、アワダチソウ、ブタクサなどきく科植物を主に寄主としているが、他にさつまいもへの加害も報告されている。



図1 葉表面のかすり状の脱色斑(きく)



図2 葉裏に寄生するアワダチソウゲンバイ(きく)



図3 アワダチソウゲンバイ成虫

## 5 防除対策

- (1) きくでは,コテツフロアブル(2,000倍で発生初期に2回以内)が登録されている。(平成25年8月7日現在)
- (2) ほ場周辺のセイタカアワダチソウやブタクサ等のきく科雑草は発生源となるので,除草を行う。

この害虫に関するお問い合わせは下記まで

### 宮城県病害虫防除所予察班

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号(宮城県仙台合同庁舎内)

TEL 022-275-8982, FAX 022-276-0429

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/index2.html>

### 宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部

〒981-1243 名取市高館川上字東金剛寺1番地

TEL 022-383-8125, FAX 022-383-9907

[http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res\\_center/](http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/)